



八角堂

青葉の笛だより

第 22 号

平成 29 年 10 月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

テレホン法話でもお話しさせていただいた、浄土真宗の熱心な女性信者だった森川りゅうさんが残された「道のうた」という詩文を紹介いたします。

これから通る今日の道、新しい道、通りなおしのできぬ道。

苦しいことから逃げていると、楽しいことから遠ざかる。

感謝の心、みんなあるはず、だせるはず。

勝つ人は強いが譲る人はさらに強い。人の世は、山坂多い旅の道。

長所はうぬぼれると短所になる。短所は自覚すれば長所となる。

やり手になるより任せられる人になれ。

どんな言い訳も自分の愚かさを隠すことが出来ない。

出来ることはやろうとせず、出来ぬことばかり心配している。

知りながらつい忘れがちな親の恩。

幸福はどこにも見えず、誰にも知れず、けどみんなのそばにある。

過去が現代を作り、現代が未来を作る。苦しくとも苦しきの中に学ぶものを見よ。自分より他に自分を苦しめる者はない。

難しいことは知らなくとも、人の悪口を言わないだけで徳になる。
腹を立てまい、努めて立てまい。腹を立てると寿命が縮む。
人を困らせて得たものは自分の身につかぬ。人の欠点にはよく気がつくが、善行や長所は見逃しやすい。身なりより、光るあなたの心がけ。
ああしてこうして計画満点、実行せぬは玉に瑕。

褒められて喜ぶ人は多いが、叱られて反省する人は少ない。
与えても減らぬ親切、残る徳。成り行きは偶然に来るものではない。
嫌な仕事も喜んでやれば、好きな仕事に変わってくる。

人の世話はよくできても、人に恩をさせぬ事は難しい。

右でもない、左でもないところにまことの道がある。仕事も人の心と身になつてせよ。

金は重宝なもので神通力がある。ところが金を我が身の責め道具にする人がある。

豊かだから与えるのではない、与えるから豊かになる。

笑顔でおはよう、感謝でおやすみ。

希望と感謝と反省の日を重ねつつ、わが生涯を意義深く。

いかがでしたか。良い文章を姿勢を正して音読すると、心にも体にも良い影響をあたえます。是非試してみてください。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

須磨寺経木供養所 八角堂落慶法要厳修



去る十月一日（日）午前十一時より須磨寺経木供養所、八角堂落慶法要を厳修いたしました。当日は晴天の中、金棒引きと法螺師を先頭に、導師、職衆八名と十四名のお稚児さんが行列に加わり、境内を練り歩き盛大な法要となりました。お稚児さんは一人一人導師である須磨寺管長親下よりお加持をいただき、この度新たに造立されました八角堂本尊・阿弥陀如来様に献花を行いました。法要は、ご詠歌の詠唱、僧侶の読経のほか、ギターリスト・小馬崎達也氏率いるパンゲアによりまずギターとお琴の奉納演奏も行われました。

八角堂は、皆様からの瓦のご奉納やご寄進、甚深なるご協力を賜りまして無魔完成することができました。ここに改めて深謝申し上げます。新たな経木供養所「八角堂」には是非お参りください。



須磨の火祭り



来る十一月二十三日(祝・木曜日)午前十一時より、須磨寺秋季大祭「須磨の火祭り」(柴燈大護摩供、火生三昧火渡り修行)を厳修致します。柴燈護摩とは、屋外で焚く大護摩のことです。もともとは山伏が山の中で行っていた修験道の修行であり、不動明王の智慧の火によって皆様の諸願成就を祈ります。護摩壇が点火されると、境内は煙で包み込まれます。この煙にあたれば、無病息災のご利益を得られると伝えられています。法要の最後には、火渡り修行が行われます。火渡りは火の上を歩く荒行です。浄火によって煩惱を焼き尽くし、古い身体と別れ新たに生まれ変わるといふ意味があります。この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年をお迎え下さい。

記

- 一、日時 十一月二十三日(木曜日・祝日) 午前十一時開白
 - 一、会場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて
 - 一、ご祈禱 特別祈禱札 一万円・三万円・五万円
添護摩木 千円
 - 一、火渡り 厄年特別火渡り 五千元
一般火渡り 二千元(先着百五十名)
- ※火渡り申込の方には当日お礼、行者手ぬぐいをお渡しします。
※火渡り神事は荒行です。多少のやけどもありです。
申込書の注意をよくお読みのうえお申し込みください。
- 一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込みください。

特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをされることをおすすめします。

平成三十年 厄年表

平成 十二年生 (女性) 厄年	平成 六 年生 (男性) 小厄
昭和六十二年生 (女性) 前厄	昭和五十二年生 (男性) 前厄
昭和六十一年生 (女性) 本厄	昭和五十一年生 (男性) 本厄
昭和 六十年生 (女性) 後厄	昭和五十一年生 (男性) 後厄
昭和五十七年生 (女性) 厄年	昭和三十三年生 (男性) 厄年
昭和三十三年生 (女性) 厄年	

須磨寺 子ども寺子屋修行

須磨寺では毎年七月三十日に、子どもたちが須磨寺で一日修行体験をする寺子屋修行を行っています。今年は四十名の子どもたちが明るく楽しい雰囲気の中で修行することができました。普段学校では学ぶことのできない、読経・座禅などを通じて様々なことを感じたと思います。今回参加して下さった内浦咲良さんの感想文を掲載させていただきます。



須磨寺 子ども寺子屋修行に参加して

私は、寺子屋体験でとてもいいことが二つあります。一つ目は、諸堂参拝でお参りするお堂があんなに多いことにびっくりしました。あまり諸堂参拝のことを知らなかったの簡単かなと思っていたけれど、暑い中たくさん歩いてしんどかったです。毎日これをしているお坊さんはすごいなと思いました。今まで知らなかったお堂もあったので楽しかったです。二つ目は、お経のことです。般若心経は聞いたことがなく、声をだしてついでいくことが大変でした。あんなにすらすらと唱えるお坊さんはすごいなと思いました。長いお経を何も見ずに唱えていて驚きました。諸堂参拝の時は、般若心経のほかにも唱えるお経があつてとても大変でした。

この前お墓参りの時に、見ながらだけ般若心経を唱えることができたので、とてもうれしかったです。

寺子屋修行では、ランタンやお数珠も作りました。ランタンは、水風船を練り返し口ウにつけて作ります。水風船が口ウで重くなつていくので、落として大変でした。最後にランタンの中にライトを入れるととてもきれいでうれしかったです。お数珠はどのようなデザインにするか考えながら珠を入れていくのが、楽しかったです。

この寺子屋体験は六年生までからもう参加できないけれど、また参加したいなと思いました。

内浦 咲良

招福 仏像彫刻会

あなたご自身の手で
世界にただ一体だけの
仏さまを彫ってみませんか

須磨寺大仏師山高龍雲先生ご指導のもとお身丈約11センチの大黒天様を彫る仏像彫刻会を開催します。今年より七福神を毎年一体ずつ彫っていきます。今年が初回となります。初めての方も大歓迎です。最後に開眼（お精念入れ）のお勤めを行い、合わせて皆様の招福祈願を行います。心を込めて彫った大黒天様はきっとあなたを見守り救ってくださいます。木の香りに包まれながら、心静かな時間をお過ごしください。



大黒天 荒彫り



大黒天 完成

12月11日(月) 10時～16時

場所：須磨寺 書院客殿

参加費：7,000円 昼食代含む完全予約制

お申し込み・お問い合わせ先：☎ 078-731-0416